

注意していますか、家の周囲の安全対策

家の中から外へ避難することを考えたとき、実は家の周囲にも普段から気をつけておくべきポイントがいくつかあります。危険箇所をチェックして、必要であれば適切な対策を行いましょう。

一戸建ての安全対策ポイント

●雨戸

揺れで開かなくなってしまうくらい建てつけが悪くなっていないかチェック。問題があれば修理しておく。

●屋根

アンテナがしっかり固定されているかチェックする。屋根瓦がひび割れていたり、はがれていたりズレていないか確認し、必要に応じて補強する。

●ベランダ

いつでも避難できるように整理整頓しておく。植木鉢やエアコンの室外機は配置換えするか、固定などの防止策を講じる。

●玄関周り

自転車やバイク、植木鉢などを置く場合は、出入りの支障にならないようにする。

●ブロック塀

しっかりとした基礎がないものや、鉄筋が入っていない場合は補強する。ひび割れや傾き、鉄筋がさびている場合は修理する。

●プロパンガス

倒れないように、ボンベを鎖で壁面にしっかり固定する。

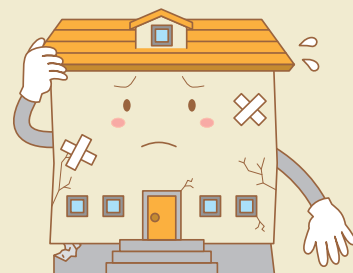
✓チェックポイント 耐震診断を受けましょう

阪神・淡路大震災では、亡くなられた方の約8割が家屋の倒壊や家具類の転倒による圧迫や窒息死でした。地震による犠牲者を減少させるには、住宅の耐震化が効果的です。大切な家族や自分の命を守るために、わが家の住居の耐震診断をしましょう。

●市では昭和56年5月31日以前に建築された木造住宅の耐震診断や耐震改修工事などに掛かる費用の一部を補助しています。

●お問い合わせ先
建築住宅課 電話046-252-7396

●インターネットでも簡易な耐震診断法を紹介しています。
(財)日本建築防災協会「誰でもできるわが家の耐震診断」
<http://www.kenchiku-bosai.or.jp/seismic/wagaya.html>



集合住宅の安全対策ポイント

マンションなどの集合住宅では、多くの人たちが生活しているため、一戸建て住宅とは違った防災対策が求められます。自主防災組織を中心に、防災訓練や防災設備の点検などに取り組みましょう。

玄関

玄関は、避難経路として大切な場所なので、万一、開かなくなった場合を考えて、バールを用意しておく。



通路

避難の妨げにならないよう、通路には自転車などを置かないようにする。火事に備えて古雑誌など燃えやすいものも置かないようにする。



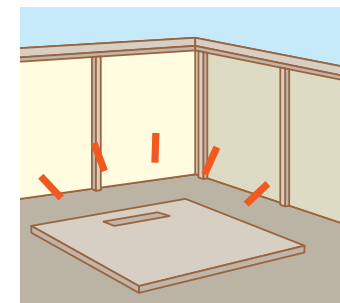
非常階段・非常扉

安全に避難できるように、通行を妨げるものは置かない。特に非常扉の前や階段付近は思わぬトラブルを生むので要注意。



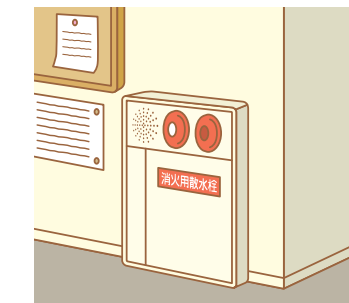
ベランダの非常ハッチ

普段から使用方法を確認しておく。避難器具の周りにもものが置かれているといざというとき役に立たないことがある。



防災用具・防火設備

共用スペースにある防災用具や消火器、火災報知器などの場所を普段から認識しておく。また消火器は有効期限に注意する。



管理組合との連携

防災訓練、防災設備の点検などの連絡は忘れないようにメモをする。訓練などは積極的に参加し普段から連携をとる。



✓チェックポイント 高層マンションに必要な備え

一般的に高層マンションは耐震性に優れていると言われていますが、建物が高いゆえに大きく揺れる弱点もあります。特に高層階では、揺れが長く続くことがあるため、家具類が倒れたり、ものが落ちたりしないよう、家具の転倒・落下防止対策をしておきましょう。また、エレベーターが停止してしまうと物資を運ぶのが困難となるため、日頃から非常備蓄品を多めに準備しておきましょう。

